



全ては編集されている

池上 彰
いけがみ あきら

目標

- 文章や映像などに表されている情報と情報の関係を捉える。
- 写真を見るときの観点を知り、写真の特徴を生かした多様な活用の仕方について考える。

メディアにふれるうえで、まずは自覚していただきたいこと。それは、「全ては編集されている」ということです。

バラエティ番組を見ていると、タレントの発言の一つ一つにテロップ（字幕）がきます。番組を収録したあと、編集でテロップを書き込んでいくのですね。タレントどうしのやりとりが目まぐるしく出てきますから、見ていると、「ああ、不必要な場面はカットして、おもしろいやりとりだけをつないだのだなあ。」ということがわかります。

しかし、編集されているのは、バラエティやドラマばかりではないのです。ニュースもまた同じです。

私がNHKに入ったのは一九七三年のことです。駆け出し記者として、島根県松江市で警察や消防を担当していました。ある日のこと、島根県の消防学校の卒業式を取材しました。

最初に講堂で行われた卒業式は、学校長の式辞など、型どおりのものでした。でも、そこは消防学校。卒業式のあと、出勤服に着替えた学生たちが、訓練で身につけた技術を披露するのです。

これを取材した私は、卒業式の様子から、順番に原稿を書いてデスクに提出しました。デスクとは、若い記者が書いた原稿をチェックするベテラン記者のことです。

私の原稿を読んだデスクは、「原稿の順番を変えよう。」と言い出しました。私の原稿は、できごとを順番に記していました。これでは、テレビの映像としておもしろくないというのです。まずは消防技術の披露の映像を見せて視聴者の興味をひき、そのあとで卒業式のことを伝えようというわけです。

順番を逆にしていいの？ などと私は疑問に思ったのですが、そこはベテランのデスク。原稿をうまく直します。消防技術披露のことを先に書いたあと、「これに先立ち、消防学校では……」と直したのです。

これなら、まちがいはありませんね。順番を逆に編集しています、という説明にもなっています。そうか、順番を逆にしても、原稿がちゃんとしていれば、嘘にはならないのだ。私は感心しました。ニュースも編集されている、というのは、例えばこういふことなのです。

編集の技法は、とりわけドキュメンタリーの場合に威力を発揮します。

例えば、ある結婚式のシーンだとします。結婚式の映

像のあとに、美しい花の映像をつなぐと（これをイメージショットといいます）、幸せな結婚のイメージが伝わります。

ところが、結婚式の映像に、嵐が近づく空の映像をつなぐと、波乱の結婚生活を予感させます。コメントをつけなくとも、視聴者が、そんなイメージをもってくれるのです。映像をして語らしめる、とは、こういうことなのでですね。

しかし、この手法を悪用すれば、作り手として嘘はつかに視聴者にまちがったイメージを与えることも可能です。編集というものの、可能性と危険性がわかりいただけたでしょうか。メディアにふれるときは、「全ては編集されている」という自覚をもつようにしましょう。



池上彰「二九五〇」

長野県に生まれた。ジャーナリスト。

著書に『そうだったのか！現代史』『ニュースの読み方』『伝える力』などがある。

《出典》『池上彰のメディア・リテラシー入門』によった。